

誰もが抱える悩みを。パッと解決！

福 田 貴 一 先生 の 福 が 来 る ア ド バ イ ス



早稲田アカデミー
千葉ブロック統括責任者
福田 貴一

わが子が「中学受験」をするつもりなら

中学入試の結果を左右する 低学年の過ごし方

早稲田アカデミーにA君とB君というふたりの塾生がいました。A君は小学校1年生から「スーパーキッズ」に通い始め、パズルや算数クイズがおもしろいと、低学年の頃はとても楽しんで塾に通っていました。しかし、3年生になると、漢字を覚えるのが苦手、難しい問題は飛ばすなど、少し勉強が苦手になってしまいました。その結果、5年生になったときの塾内テストの偏差値は48。あまり良い成績とは言えませんでした。

一方、5年生から早稲田アカデミーに入塾したB君。入塾テストの偏差値は52で、A君よりも偏差値が高い状態で受験勉強をスタートしました。その後、ふたりは同じ中学を受験したのですが、このように結果になったと聞かれますか？

実は、A君だけが希望校に合格しました。しかも、かなりの好成绩での合格です。では、なぜA君よりも偏差値が良かったB君は合格できなかったのでしょうか。答えは、能力や学力などの差ではありません。「低学年をどのように過ごし、何を鍛えてきたか」が違っていたと聞かれます。

5年生からのスタートでは遅すぎる！

中学受験に合格するためには、ある定の学力が必要で、B君のように5年生から塾に入った場合、その定の学力に達するまでに残された期間は2年弱しかありません。おそろしくこの2年弱は、この面、B君が想像していた以上に厳しいものだったでしょう。

このように、塾では5年生になれば覚えなければならぬ内容が一気に増えます。たとえば、小学校で半年かけて学ぶ内容を一週間で学ぶくらいのスピードで、次々に進んでいきます。そんな勉強を、算数、国語、理科、社会の4教科において、毎週繰り返していくのですから、B君にとっては授業についていくだけでも難しかったと思います。反対にA君は1年生から塾に通っているため、4年生までにある程度の知識が蓄積されています。また、勉強する習慣も身につけているので、5年生から授業がハードになってもきちんと理解し、必要な学力を身につけることができました。この違いがふたりの合格を分けることになったのです。

希望する中学に合格するための必須条件は、その中学が求める学力が身につけていることです。では、どうすれば子どもたちが合格できる学力を身につけさせることができるのでしょうか。わが子に中学受験をさせようと思ったとき、親は何に注意しながら、子どもたちにとって必要な力をつけられるのか、これらについて考えてみましょう。

「頭のなかのタンス」は低学年で作る

「だったら低学年から入塾させれば中学受験は大丈夫」。これは、必ずしも正解ではありません。なぜなら、早くに塾に入ってもしっかりと「頭のなかのタンス」を作らないと希望する中学には合格できないからです。

まず、頭のなかのタンスを思い浮かべてください。そのタンスのなかには、どんな知識を入れるのが5年生です。そして、タンスから知識を取り出す練習をす



るのが5、6年生です。この「頭のなかのタンス」は洋服のタンスと同じで、いつもきちんとして整理してあげれば、欲しいモノがすぐに取り出せます。しかし、引き出しが少なくても何もかも一緒に詰め込んでしまうと、欲しいモノを探すのに時間がかかり、ときには見つからない場合もあります。

そのためなら、いっしょに整理整頓しておきたい。「頭のなかのタンス」ですが、残念ながらB君のように5年生から塾へ入ると、頭張っていてもある程度までしか整理整頓できません。その理由は、1年生から4年生の間の準備が不十分だからです。まず、1、2年生の間にタンスそのものを大きくしていただきます。3、4年生では引き出しを作り、整理しやすいように仕切りを作っていきます。当たり前ですが、引き出しがたかたかあり、しかも仕切りで分かれているほど、モノは取り出しやすくなります。つまり、A君は5年生になった時点で、まだ「頭のなかのタンス」に入っていない知識が少なかつたけれど、中学受験するときには十分にタンスを使いこなせた。反対にB君は4年生までに「頭のなかのタンス」をきちんと作っていないから、知識をうまく活用できなかったというわけです。

ポイント 「考える」「調べる」

知識を取り出しやすい。「頭のなかのタンス」を作るには、まずは十分に「考える」「調べる」が重要になります。ご家庭で取り組む場合は、「1から10までの数字を交互に一つから一つまで言い合ひ、20を言ったら負け」といったゲームを勝負してはどうかでしょうか。このゲームは、必勝法を知っていれば必ず勝てます。しかし、必勝法に気がつかなければ絶対に知っている人には勝てません。ぜひ、「どうすれば勝てるのか」「子どもたちに考えさせてみてほしい」。



味を持ち、自分で調べることを繰り返せば、「頭のなかのタンス」はどんどん成長していきます。このとき、大切にしなければならぬのが「調べる」という作業そのもので、おもしろい「興味を持ち、疑問に思うこと」を一緒に調べるようにしてください。その繰り返しが「一緒に調べる」の習慣につながります。このように十分に考え、調べ、試行錯誤を繰り返せば、「頭のなかのタンス」は成長し、いよいよ中学受験で勝ち抜くための欠かさないアイテムになっていきます。さらにいえば、「頭のなかのタンス」は、社会人になったときの深い思考力や観察力のもととなり、有意義な人生を送るための基礎になるはずですよ。

親子で取り組む中学受験

「頭のなかのタンス」作りを促そうと「考えるようにしない」「分からないことは調べる」と言い続けるだけでも、子どもたちは何をどうすればいいのかわかり

ません。やはり、低学年の間は周りの大人がその手助けをしたいものです。まずは、勉強方法を習得させましょう。この場合に注意したいのが、効率や結果だけを求め過ぎないことです。低学年から公式を使って問題を解かせるのではなく、道筋を立てて考えることを繰り返させるのが、「考える」を大切にしましょう。ぜひ、「5年生になれば覚えた公式を使える活用力も必要です。発達段階に応じた勉強ができるよう、うまく導きましょう」。

次に、子どもと一緒に取り組みたいのが時間の使い方です。おそろしく、どんなに複雑な問題でも時間をかければ解けるはずですが、しかし、中学入試では時間制限があります。つまり、いかに効率良く問題を解くかによって合格が決まるのです。また、口頭の勉強も、時間単位の学習密度が高いほど中学受験に有利になるのは言うまでもありません。どうすれば与えられた時間を有効に使えるのか、子どもと一緒に考えていただきたいと思えます。

中学受験はあくまでも選択肢のひとつ

現在、日本では、グローバル化、多様化が進み、思考力や観察力、さらには優秀な頭脳を持った人間が必要とされるようになってきました。そのような時代背景のもと、中学受験は子どもたちの生育環境や将来を選択するひとつの選択肢の一つになります。

とはいえ、小学校6年生全員が中学受験を選択できるわけではありません。しかし、もしも中学受験を選択できる環境にあるならば、親子で中学受験に向けて頑張れるのか、子どもたちの将来の選択肢を増やすためにも一度考えてみてはいかがでしょうか。

お問い合わせお待ちしております
みなさまのお悩みに福田先生が紙面上でお答えします。
下記のアドレスまでお寄せください。
メール: success12@shahyo.com
採用された方には、オリジナルスタンプを差し上げます。